

第110期 注記表

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

DOWAホールディングス株式会社

連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社は71社であり、主要な連結子会社の名称は次のとおりです。

DOWAエコシステム(株)、MODERN ASIA ENVIRONMENTAL HOLDINGS INC.、DOWAメタルメイン(株)、小坂製錬(株)、秋田製錬(株)、DOWAエレクトロニクス(株)、DOWAメタルテック(株)、DOWAサーモテック(株)

なお、前連結会計年度まで非連結子会社であった岡山砥油(株)、オートリサイクル秋田(株)、バイオディーゼル岡山(株)、DOWA ECO-SYSTEM SINGAPORE PTE.LTD.、江西同和資源綜合利用有限公司、秋田リサイクル・アンド・ファインパック(株)、HIGHTEMP FURNACES LTD.および昆山同和熱処理工業炉有限公司は重要性が増したため、当連結会計年度から連結の範囲に含めています。

上記以外の子会社のうち、卯根倉鋳業(株)ほか計16社(休眠会社静狩金山(株)ほか計2社を含む)の合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結総資産、連結売上高、連結当期純損益および利益剰余金等に対し、いずれも僅少であり、全体として連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため非連結子会社としました。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用関連会社は13社であり、主要な持分法適用関連会社の名称は次のとおりです。

光和精鋳(株)、小名浜製錬(株)、MINERA TIZAPA, S.A.DE C.V.、藤田観光(株)

なお、TDパワーマテリアル(株)は重要性が増したため、当連結会計年度から持分法の適用の範囲に含めています。

卯根倉鋳業(株)ほか非連結子会社計16社(休眠会社静狩金山(株)ほか計2社を含む)および関連会社計6社の合計の当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結当期純損益および利益剰余金等に対し、いずれも僅少であり、全体として連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため持分法を適用していません。

また、これらの会社に対する投資については原価法により評価しています。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、MODERN ASIA ENVIRONMENTAL HOLDINGS INC.、蘇州同和資源綜合利用有限公司、同和金属材料(上海)有限公司等海外15社の決算日は12月31日です。連結計算書類の作成にあたっては、同社の決算日の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

① 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券(時価のあるもの)……市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算出しています)

その他有価証券(時価のないもの)……移動平均法による原価法

持分法非適用の非連結子会社および関連会社株式

……移動平均法による原価法

② デ リ バ イ ブ……時価法

③ たな卸資産の評価基準および評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっています。

金・銀・銅・鉛・亜鉛・プラチナ・パラジウム・ロジウム・カドミウム

……先入先出法

その他の主要なたな卸資産……移動平均法および個別法

(2) 重要な固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、最終処理施設は生産高比例法、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法

なお、耐用年数および残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。

- ② 無形固定資産（リース資産を除く）
定額法
なお、耐用年数については、自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間(5年)、ソフトウェア以外は法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。
- ③ リース資産
所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
……自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法により算定しています。
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
……リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する方法によっています。
なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しています。
- (3)重要な引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権など特定の債権については個別に債権の回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しています。
- ② 賞与引当金
従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しています。
- ③ 役員賞与引当金
役員に対して支給する賞与(業績連動報酬の業績連動部分を含む)の支出に充てるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき、当連結会計年度に見合う分を計上しています。
- ④ 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の時価に基づき計上しています。
数理計算上の差異については、主として発生の翌連結会計年度以降、定額法により5年間での按分額を営業費用に計上しています。
なお、一部の連結子会社については、簡便法を採用しています。
- ⑤ 役員退職慰労引当金
連結子会社の一部は役員の退職慰労金支出に備えるため、内規に基づく要支給額を計上しています。
- ⑥ 環境対策引当金
「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」(平成13年6月22日 法律第65号)の規定によるポリ塩化ビフェニル廃棄物の処分費用に充てるため、当連結会計年度末における処分費用の見積額を計上し、固定負債の「その他の引当金」に含めて表示しています。
- (4)重要な収益および費用の計上基準
完成工事高および完成工事原価の計上基準
当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約については、工事進行基準を適用し、その他の工事契約については、工事完成基準を適用しています。
なお、工事進行基準を適用する工事の当連結会計年度における進捗度の見積りは、主として原価比例法によっています。
- (5)その他の連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項
- ① ヘッジ会計の方法
イ、ヘッジ会計の方法
原則として、繰延ヘッジ処理を採用していますが、借入金利息に対する金利スワップ取引については、特例処理の要件を充たしているため特例処理を採用しています。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は次のとおりです。

- ・ヘッジ手段 …… 金利スワップ取引
- ヘッジ対象 …… 借入金利息
- ・ヘッジ手段 …… 非鉄金属先渡取引
- ヘッジ対象 …… たな卸資産の販売額・購入額

ハ. ヘッジ方針

為替変動、金利変動、商品価格変動等の相場変動によるリスク回避を目的として、対象物の範囲内で個々の取引ごとにヘッジしています。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法等

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動の累計とヘッジ手段の相場変動の累計とを比較し、両者の変動額などを基礎にして、毎月ヘッジ取引を統括する会議において評価しています。また、連結子会社については、毎月当社に運用・評価状況を報告しています。

② 消費税等の会計処理

消費税等については、税抜方式によっています。

③ のれんの償却の方法および期間

のれんは定額法により償却しています。また、償却期間は個々の超過収益力を勘案し20年以内の一定の年数で処理しています。

④ 連結納税制度

連結納税制度を適用しています。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しています。

これにより、従来の方法に比べて、当連結会計年度の営業利益は401百万円、経常利益および税金等調整前当期純利益は403百万円増加しています。

(連結貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産の内容およびその金額

有形固定資産	237百万円
投資有価証券	9,442百万円

2. 担保に係る債務の金額

短期借入金	8,484百万円
長期借入金	18,944百万円

3. 有形固定資産の減価償却累計額 235,771百万円

(注) 上記金額には減損損失累計額を含めています。

4. 偶発債務

保証債務	5,570百万円
手形債権流動化に伴う買戻し義務	537百万円

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式に関する事項

(単位：株)

株式の種類	前連結会計年度末株式数	当連結会計年度増加株式数	当連結会計年度減少株式数	当連結会計年度末株式数
普通株式	309,946,031	—	—	309,946,031

2. 配当に関する事項

①配当金支払額

平成24年5月18日開催の取締役会において、次のとおり決議しています。

株式の種類	普通株式
配当財産の金額の総額	3,005百万円
1株当たり配当額	10円
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月27日

②基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの
平成25年5月20日開催の取締役会において、次のとおり決議を予定しています。

株式の種類	普通株式
配当財産の金額の総額	3,606百万円
1株当たり配当額	12円
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月4日

(1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産額 451円41銭
- 1株当たり当期純利益金額 51円41銭
- 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎
 - ①連結損益計算書上の当期純利益 15,213百万円
 - ②普通株式に係る当期純利益 15,213百万円
 - ③普通株式の期中平均株式数 295,952千株

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金、現先取引にて行っています。

一方、資金調達については、銀行借入を中心として社債、電子CP等で実施し、調達手法や借入先、償還期間等の分散化を図ることを方針としています。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理を行い、リスク低減を図っています。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っています。

デリバティブについては、借入金利息、たな卸資産の販売額・購入額等の相場変動リスクを回避する目的で、対象物の範囲内に限定して利用しており、投機的な取引は行っていません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日(当期の連結決算日)における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:百万円)

	連結貸借対照表計上額(※1)	時 価(※1)	差 額
(1) 現金及び預金	6,163	6,163	—
(2) 受取手形及び売掛金	71,829	71,829	—
(3) 投資有価証券	38,384	39,274	889
(4) 支払手形及び買掛金	(42,403)	(42,403)	—
(5) 短期借入金(※2)	(28,020)	(28,020)	—
(6) 社債	(10,000)	(10,135)	△ 135
(7) 長期借入金(※2)	(69,117)	(69,949)	△ 831
(8) デリバティブ取引(※3)	(887)	(887)	—

(※1)負債で計上されているものについては、()で示しています。

(※2)1年内返済予定長期借入金(連結貸借対照表計上額24,494百万円)については、「(7)長期借入金」に含めています。

(※3)デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした純額を表示しています。

(注)1 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

(1)現金及び預金ならびに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっています。

(4)支払手形及び買掛金ならびに(5)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(6)社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格に基づいて算定しています。

(7)長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており(下記(8)デリバティブ取引参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっています。

(8)デリバティブ取引

これらの時価については、商品先物市場および先物為替相場等における連結会計年度末現在の先物相場および為替相場をもとに算出しています。金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています(上記(7)長期借入金参照)。

2 非上場株式等市場価格がないもの(連結貸借対照表計上額17,802百万円)については、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めていません。

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準および評価方法
 - (1) 有価証券の評価基準および評価方法
 - 関係会社株式および出資金……………移動平均法による原価法
 - その他有価証券(時価のあるもの)……………市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算出しています)
 - その他有価証券(時価のないもの)……………移動平均法による原価法
 - (2) デリバティブの評価基準および評価方法
 - 時価法
2. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産
 - 定率法
 - ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法
 - なお、耐用年数および残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。
 - (2) 無形固定資産
 - 定額法
 - なお、耐用年数については、自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間(5年)、ソフトウェア以外は法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。
3. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
 - 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率により計上し、貸倒懸念債権など特定の債権については個別に債権の回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しています。
 - (2) 賞与引当金
 - 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しています。
 - (3) 役員賞与引当金
 - 役員に対して支給する業績連動報酬の業績連動部分の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しています。
 - (4) 退職給付引当金
 - 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しています。
 - 数理計算上の差異については、発生の翌事業年度以降、定額法により5年間での按分額を営業費用に計上しています。
 - (5) 環境対策引当金
 - 「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」(平成13年6月22日 法律第65号)の規定によるポリ塩化ビフェニル廃棄物の処分費用に充てるため、当事業年度末における処分費用の見積額を計上しています。
4. ヘッジ会計
 - (1) ヘッジ会計の方法
 - 借入金利に対する金利スワップ取引は、特例処理の要件を充たしているため特例処理を採用しています。
 - (2) ヘッジ手段とヘッジ対象
 - 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は次のとおりです。
 - ヘッジ手段 …… 金利スワップ取引
 - ヘッジ対象 …… 借入金利

- (3)ヘッジ方針
金利変動によるリスク回避を目的として、ヘッジ対象物の範囲内で個々の取引ごとにヘッジしています。
- (4)ヘッジ有効性評価の方法等
特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しています。
5. 消費税等の会計処理
消費税等については、税抜方式によっています。
6. 連結納税制度
連結納税制度を適用しています。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しています。

これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益および税引前当期純利益は3百万円増加しています。

(貸借対照表に関する注記)

1. 担保に供している資産の内容およびその金額	
投資有価証券	3,773百万円
関係会社株式	4,303百万円
2. 担保に係る債務の金額	
短期借入金(一年内返済予定長期借入金を含む)	8,384百万円
長期借入金	18,944百万円
3. 有形固定資産の減価償却累計額	9,554百万円
4. 偶発債務	
保証債務	15,734百万円
手形債権流動化に伴う買戻し義務	537百万円
5. 関係会社に対する金銭債権・債務	
短期金銭債権	89,625百万円
長期金銭債権	14,003百万円
短期金銭債務	23,930百万円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高	
営業取引高	13,782百万円
営業取引以外の取引高	2,963百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式に関する事項

(単位：株)

株式の種類	前事業年度末株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	9,413,390	4,243	1,137	9,416,496

(注) 自己株式の増加は単元未満株式の買取りによるもの、減少は単元未満株式の買増し請求に基づく売却によるものです。

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

関係会社株式評価損	5,139百万円
税務上の繰越欠損金	1,852百万円
会社分割に伴う関係会社株式	1,819百万円
投資有価証券評価損	1,383百万円
減損損失	867百万円
退職給付引当金	769百万円
貸倒引当金	637百万円
ゴルフ会員権評価損	70百万円
賞与引当金	45百万円
未払事業税	10百万円
その他	91百万円
繰延税金資産小計	12,685百万円
評価性引当額	△10,849百万円
繰延税金資産合計	1,835百万円

(繰延税金負債)

その他有価証券評価差額金	△2,693百万円
その他	△ 5百万円
繰延税金負債合計	△2,698百万円
繰延税金資産(負債)の純額	△ 863百万円

(関連当事者との取引に関する注記)

子会社および関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の 所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子 会 社	DOWAエコシステム(株)	直接所有 100%	経営管理 資金貸付	経営管理料の受取 (注)1 長期資金の貸付 資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	1,446 — 4,255 297	売掛金 長期貸付金 短期貸付金 —	126 14,000 6,094 —
	DOWAメタルマイン(株)	直接所有 100%	経営管理 資金貸付	経営管理料の受取 (注)1 資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4 当社の銀行借入金に対する 有価証券の担保提供 (注)2 債務の保証(注)8 債務保証料の受取 (注)8	1,643 31,441 438 4,243 8,831 17	売掛金 短期貸付金 — — — 未収入金	143 34,198 — — — 0
	DOWAエレクトロニクス(株)	直接所有 100%	経営管理 資金貸付	経営管理料の受取 (注)1 資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	1,084 2,800 34	売掛金 短期貸付金 —	94 826 —
	DOWAメタルテック(株)	直接所有 100%	経営管理 資金貸付	経営管理料の受取 (注)1 資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	1,106 7,319 93	売掛金 短期貸付金 —	96 6,809 —
	DOWAサーモテック(株)	直接所有 100%	経営管理 資金貸付	資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	5,035 86	短期貸付金 —	6,017 —
	DOWAマネジメントサービス(株)	直接所有 100%	事務委託	業務委託料の支払 (注)3	1,662	未払金	145
	DOWAテクノロジー(株)	直接所有 100%	技術支援委託	業務委託料の支払 (注)5	885	未払金	77
	エコシステム千葉(株)	間接所有 100%	資金貸付	資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	6,573 108	短期貸付金 —	3,276 —
	グリーンフィル小坂(株)	間接所有 100%	資金貸付	資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	2,304 36	短期貸付金 —	2,445 —
	秋田製錬(株)	間接所有 81%	資金貸付	資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	4,551 67	短期貸付金 —	3,644 —
	小坂製錬(株)	間接所有 100%	資金貸付	資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	7,254 108	短期貸付金 —	4,890 —
	(株)日本ピージーエム	間接所有 60%	資金借入	資金の借入(注)7 借入利息(注)4	6,740 96	短期借入金 —	7,244 —

種類	会社等の名称	議決権等の 所有割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子 会 社	秋田ジンクリサイクリング(株)	間接所有 100%	資金貸付	資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	3,485 50	短期貸付金 —	3,172 —
	DOWAサーモエンジニアリング(株)	間接所有 100%	資金貸付	資金の貸付(注)7 貸付利息(注)4	6,190 112	短期貸付金 —	6,099 —
関 連 会 社	小 名 浜 製 錬 (株)	間接所有 31.6%	—	債務の保証(注)9 債務保証料の受取 (注)9	4,497 12	— —	— —

取引条件および取引条件の決定方針等

(注)1 経営管理料の受け取りについては、毎期交渉のうえ決定しています。

- 2 当社の銀行借入金に対する有価証券の担保提供については、当社および当社グループの必要資金借入に対するものです。
- 3 DOWAマネジメントサービス(株)に対する業務委託料の支払いについては、毎期交渉のうえ決定しています。
- 4 資金の貸付および借入については、市場金利を勘案して利率を決定しています。
- 5 DOWAテクノロジー(株)に対する業務委託料の支払いについては、毎期交渉のうえ決定しています。
- 6 子会社への貸倒懸念債権等に対し、合計1,768百万円の貸倒引当金を計上しています。また、当事業年度において貸倒引当金繰入額を合計1,226百万円、貸倒引当金戻入額を2,436百万円計上しています。
- 7 子会社に対する資金の貸付・借入は反復的に取引を行っているため、月末平均残高を取引金額として記載しています。
- 8 DOWAメタルマイン(株)の原料鉍石仕入に対して支払保証を行っています。
- 9 小名浜製錬(株)の借入に対して債務保証を行っています。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額 297円68銭
2. 1株当たり当期純利益金額 8円60銭
3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎
 - ①損益計算書上の当期純利益 2,583百万円
 - ②普通株式に係る当期純利益 2,583百万円
 - ③普通株式の期中平均株式数 300,531千株

(重要な後発事象に関する注記)

該当する事項はありません。

